

词语的岁时记 7月的季语

在日本，梅雨一结束，就到了真正的夏天。火辣辣地、晒黑皮肤的强烈太阳倾注袭来，适合用极暑、酷暑、炎暑、大暑来表示季节的词语的、这个季节来临了。

在日历上，从6月开始即为夏天。不过、从梅雨结束的7月中旬开始，太平洋的高气压瞬即气势增强，灼热的酷暑一直持续到8月。为了克服如此炎热酷暑，古人在窗上挂上遮阳的「竹帘(日语译音「丝达类」)，吊上发出清凉音色的「风铃」，扇着「团扇」(日语译音「无几哇」)，坐在「凉席」(日语译音「果杂」)和「藤椅(日语译音「托怡丝」)」上，吃着「细挂面((日语译音「索面」)」和「凉面条」(日语译音「嘿亚木给」)，进行乘凉。

近来，在大都市、超过接近体温的 35℃的日子很多，并发生着热岛现象。在这种情况下，活用日本人自古以来的智慧，认识到有利于环境的生活的人在不断增加，这对抑制都市的气温上升也有帮助。

ことばの歳時記 ～7月の季語～

日本では、梅雨が明けると、いよいよ夏本番です。ジリジリと肌を焼く強烈な太陽が降り注ぎ、極暑、酷暑、炎暑、大暑といった季語があてはまる季節がやってきます。

暦の上では、6月から夏ですが、梅雨が明ける7月中旬頃から、太平洋高気圧が一気に勢力を強め、焼けつくような暑さが8月まで続きます。そんな暑さを乗り切るために、昔の人は、日除けの「簾(すだれ)」を窓にかけ、涼しげな音色の「風鈴」をつるし、「団扇(うちわ)」で扇ぎ、「蔭座(ござ)」や「籐椅子(とういす)」に座って、「素麺(そうめん)」や「冷や麦(ひやむぎ)」をすすって、涼をとっていました。

昨今、大都会では、体温に近い35℃を超える日が多く、ヒートアイランド現象が起こっています。そんな中、日本人の昔ながらの知恵を生かし、環境に優しい生活を意識する人が増えており、都会の気温上昇抑制にも一役買っています。